

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」
- 研究について
- 季刊「生命誌」
- 展示・映像
- その他

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

進歩から多様の進化へ

投稿日：2017.06.30 ニックネーム：とらこ

先日、大阪中之島での中村桂子先生の基調講演を拝聴させて頂きました。これから時代の大きな転換期をどう考え、生きていくべきなのか、短い時間の中に凝縮された内容でわかりやすくお話して頂き、柔らかいお人柄も合わさってお話が心にスッと染み入りました。

私自身は現在、育児休業中で3歳と0歳の子育てに追われる日々なのですが、中村先生のカルチャーラジオでのまどみちおさんの詩から見る生命誌のお話を聞きながら家事を進めています。まどさんの、中村先生的な視点で「そのまんまで素晴らしいのだ」と子供や生き物をみる目を教えて頂き、自分なりに意識することで随分と救われております。

講演でもお話しされておられたように、「誰か偉い人」が行うのではなく、「私たち一人一人」が想像力を働かせ、考え行動していくことの重要性をしみじみと感じております。今の世の中、何かおかしいときと多くの方が感じているところだと思いますが、今はきっと新しい「生命をベース」の素晴らしい時代に大きく変化していく転換期であると強く信じています。地球を我が物顔に好き勝手にする「人間様様」の考え方はもう限界が来ているはずですよ。

自分ができることは微々たるものではありませんが、この素晴らしい地球の日本という国で生まれた恵みを少しでも子供たちにも感じてもらえるよう、日々を暮らしていきたいと思いました。貴重なお話本当にありがとうございました！（小学校の農業科がもっと全国に広がることを私も願っております！まずは我が家では子供にも家庭菜園の仕事を一緒に手伝ってもらっているところです）

お返事

投稿日：2017.07.03 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。今日は東京都議選の結果が出て（私は都民です）、まさに「私たち一人一人」が考えることが大事だと思いました。「偉い人」たちは「一人一人」を甘く見ていたように思います。一人一人が生活を大切に、自分で考えれば少しずつでも社会は変わると信じましょう。お仲間として御一緒に。

中村桂子の「ちょっと一言」

和まる

投稿日：2017.06.28 ニックネーム：花置人

「のどまる？」のお話を読んで、現役時代に勤務先の社内誌に「和」というテーマで一文を投じたことを思い出しました。

「『和』という言葉は会社では『社員一丸となって・・・』と同様の意味で使われるのが一般的だ。しかし絵画が単色ではなく様々な色の組み合わせで成り立つように、交響曲が様々な楽器の調和、時には不協和音も交えて聴く人に感動を与えるように、社員それぞれの個性を発揮する『和の環境』をつくる事こそが社員にとっても会社にとっても大切なことだと思う」というような趣旨だったと記憶しています。

新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

これは、私がある技術部門を統括する立場に着任した時に書いたものですが、その任にあった数年間でどれだけ『和の環境』をつくることができたかと問われれば全くお恥ずかしい限りです。

技術の領域ですらこうですから、科学や政治の世界で「和まる」ことの難しさは想像に余るものがあります。

「科学者は人間であり、人間は自然の中にある」を基本に「人間が自然の中で人間自身は勿論、他の生物とも『和まる』ことのできる道」を求めて生命誌研究館の皆様がますますご活躍されますことをお祈りいたします。

お返事

投稿日：2017.06.30 名前：中村桂子館長

和は「一丸となって」とは違いますよね。御一緒にそうではない「和」を広めましょう。今の世の中の動きを見ていて、今年はどうしても「和」という文字を身近に置いておきたかったのです。これまでは、やまとことば、動詞ということで、平仮名で一つの言葉をとりあげてきましたが、「和」（なごやか、やわらぐなど）にしたのでした。なかでも和（あ）えるを主役にして。そうしたら今まで知らなかった「和（のど）まる」を教えられ（しかも子どもの時間に）、へえっと驚いた次第です。これから使うようにして自分の言葉にしたいと思っています。とにかく「和」を身近に置いて暮らすつもりです。またお考え、書き込んで下さい（和に限りません）。



研究について

キジの鳴き方を記録しています

投稿日：2017.06.21 ニックネーム：エンドセラス

こんにちは。

季刊誌を読みました。いつも内容が濃くて、読んでいるだけでワクワクします。生命の世界は魅力的ですね。次号が楽しみです。

本日は質問があり、投稿させていただきます。

キジ、という鳥がいますね。我が家の近所に住んでいます。この書き込みの最中にも鳴き声が聞こえてきます。東日本大震災の時に、近所のキジが異様な鳴き方をしていました。それ以来、キジが地震の時に鳴くのはなぜだろうと気にはなりました。最近、やはり気になり始めたので鳴き声が聞こえた時間を記録しています。先日、6月19日の福島県中通りでの余震の際もキジは異様な鳴き方をしていました。

キジの鳴き方を研究している方を探しましたが、見つかりませんでした。生命誌の研究スタッフさまに、キジの鳴き方を研究しておられる方はおられますか。生態研究と混ざってしまいましたが、研究している方のお話を聞きたいと思い書き込みました。よろしくお願ひします。

お返事

投稿日：2017.06.30 名前：表現を通して生きものを考えるセクター川名

お便りありがとうございます。季刊誌を楽しんでいただいているとのこと、作り手としてとても嬉しく思います。「生きている」を見つめ、自分の知らなかったことに触れる度に新たな問いに出会います。なんと楽しいことだろうと思いつつ記事づくりをしています。

ご質問いただいたキジバトの研究についてですが、当館ではキジの鳴き方を研究しているスタッフはおりません。

季刊生命誌70号では、キンカチョウのさえずりの研究を紹介しています。

[「小鳥がさえずるとき脳内では何が起きている？」](#)

[バックナンバー](#)でさまざまな記事を読むことができますのでぜひご活用ください。



季刊「生命誌」

生きものの時間

投稿日：2017.06.13 名前：岡野桂子

生命誌93号researchの2編の記事、興味深くWebから再度カードに戻り、不思議の世界的一幕をしみじみ眺めいっておりました。

幼虫が昇る「大人への階段」。核内倍化3回目から4回目に至る過程、1回目

から2回目に比して随分時間がかかっている。ゆっくり時間が流れている。しかも、最後の一押しがないと進めない。8nと32n、慣性質量が大きくなって？ 思わず我が身に重ね、過去を蓄積してきた私の体内時計もゆっくりすすむようになる、と。年々世の中の時が速く進むはず。ゾウの時間、ネズミの時間、そして一生の間の様々な時間、さらには体内の細胞たちの時間。生きものの時間をめぐって色々な思いが交錯します。それにしても、38億年やナノ秒を考えた想像することができるなんて、生きものの外の時間の感覚を身につけたおかげでしょうか。いつも丁寧に作りこまれた作品、生命誌93号ありがとうございます。

お返事

投稿日：2017.06.14 名前：中村桂子館長

ていねいに楽しんでくださりありがとうございます。
小さな発信ですが読者がここから始まって、あちらこちらへと御自身で展開して下さることを願っております。どんな展開をなさったかまたお知らせ下さい。

季刊「生命誌」

楽しんでます

投稿日：2017.06.12 ニックネーム：みこころ

生命誌93が届きました。以前研究館にもお邪魔し、まず目に入ってきたのは階段。視覚を通してのアピールと同時に遊び心のあるすてきなセンスに魅了されました。今、幼稚園の子どもたちと生命の歴史の年表を毎日楽しんで制作しています。今回の紙工作もグッドタイミングで早速子どもたちにも話ながら、36億年前から繋がってきた命の大切さをこれからも伝えていきたいと思います。

お返事

投稿日：2017.06.13 名前：中村桂子館長

小さなお子さまたちと楽しんでいただけるのが一番嬉しいことです。ありがとうございます。発想がどんどん広がり、深まっていくのが楽しみです。

中村桂子の「ちょっと一言」

言葉とサイエンス

投稿日：2017.06.10 ニックネーム：友

季刊誌93の中村桂子館長のお言葉に導かれ、やや的外れかもしれませんが「言葉」に関する感想をこちらに置かせて頂こうと思立ちました。「和」は私の大好きな言葉の一つです。「和まる」は私も初めて知り、驚きました。日常で使いたくなるような、やわらかく穏やかな言葉だと感じました。

私は大学の農学部在学中にこの季刊誌と出会い、かれこれ10年以上楽しく拝読しております。思えばこの10年間、常に私の部屋や仕事机にはなにかしらBRHのペーパークラフトが飾ってありました。たまにふと目をとめては、その精巧なつくり感動しつつ笑いこぼしています。

私は今研究者として働いています。遺伝学的アプローチをしていたこともあり、分子生物学にも昔から興味をもっていました。しかしどこかで感じていた違和感や疑問、それらに答えをくれたのがこの季刊誌だったように思います。極小の世界の感動は物質としての巧みさではなく、それらが集まって生物を織り成すことで生まれるように思います。

最近の生命誌テーマにありました「ゆらぐ」、生物を考えたときにいつも私を感じることでしたので、勝手ながら嬉しかったです。生物にはたくさん、そしてその多くは物理化学で説明ができないような「ゆらぎ」があり、それこそが生物の強さであるような気がしてきました。なんて奥深く、巧みな世界だろう、といつもいつも不思議でたまりません。しかも生物一個体ですら驚くべき生命の仕組みを持つにも関わらず、数えきれないほどの生物が様々なスケールで生命を「紡ぎ」絶妙なバランスを保つ自然、そしてその自然を見つめ、「愛で」て、共に生き、文学や芸術など新たな命を吹き込んできた人々。万葉集などにみる繊細で美しい自然の描写に心惹かれてきた私にとって、科学と文学・歴史・芸術などの垣根を超えてその壮大な歴史と世界に「生命誌」という言葉を授かったとき、探していたのが見つかったような気がしました。うまく説明できないのですが、直感的にとっても正しく感じたのです。私も科学者になっていいんだと、背中を押されたように感じました。

そして季刊誌で私の好きな言葉たちを見つける度、その時の気持ちを思い出します。

テクノロジーの発展で「不自然」なことがどんどん増えてるように感じます。また、それを肯定する研究者仲間が多いことも事実で、頭で理解しつつもどこか寂しさを覚えます。しかし、季刊誌で多様な分野の方と中村館長の対談を読むとき、巧妙且つしたたかで美しい生物を「生命誌」の一部として知るとき、ただただ自然や生き物が大好きな私自身の研究者としての本質が受け入れられたような気がして、いつも元気をもらっています。

遠方に住んでいるため、残念ながら生命誌研究官には10年ほど前に一度足を運んだきりです。専ら季刊誌を愛読するのみではございますが、皆さまの益々のご活躍をお祈りするとともに、この場を借りて深く感謝申し上げます。 長文、駄文、失礼いたしました。

お返事

投稿日：2017.06.13 名前：中村桂子館長

感想ありがとうございます。

生命誌研究館が考えていること、求めていることをとてもよく理解し、また同じように考えていらっしゃるお仲間がいて下さることをとてもありがたく思います。

言葉をよく考えることで、いろいろなことが見えてくる面白さがありますね。「人間は生きもの」というあたりまえですけど、とても大事なことを考え続け、発信して行きますので、これからもお考えをどんどん書き込んで下さい。元気づけられますので。

季刊「生命誌」

有難うございます

投稿日：2017.06.09 ニックネーム：翌檜生

九州の片田舎にも、いつも送っていただき、感謝しています。理屈は、わからないことがあります、取り組まれている理念には共感しています。

お返事

投稿日：2017.06.13 名前：中村桂子館長

「九州の片田舎」とおっしゃるそのような場こそ自然に向き合うことを原点とする生命誌にとって大切なところですよ。これからもよろしく願いいたします。

その他

ありがとうございます。

投稿日：2017.06.08 名前：橋本 圭隆

生命誌93号が届きました。ありがとうございます。

お返事

投稿日：2017.06.13 名前：表現を通して生きものを考えるセクター 川名

いつも生命誌を応援いただきありがとうございます。季刊「生命誌」は私たちからみなさまへのお手紙でもありますので、じっくりお楽しみいただけると幸いです。

季刊「生命誌」

BRH CARD 93号

投稿日：2017.06.08 ニックネーム：相模のラクダ

BRH CARD 93号を拝読いたしました。RESEARCH 02「線虫が親から子に伝える記憶」；京都大学 宇野雅晴氏の研究成果を興味深く拝見いたしました。なかなか、奥深く、オリジナリティーある研究ですね。このCARDは、「生物」の最先端の研究成果を拝見でき、また、中村所長様の、異分野の

方との「対談」等は、「心」が和みます。最後の「ペーパークラフト」も良くできており、毎回、BRH CARDを楽しみにしております。皆様のご活躍、生物の関係研究の成果が出ることを願っております。

お返事

投稿日：2017.06.08 名前：中村桂子館長

和むを早速使って下さってありがとうございます。次は「和まる」ですね。



その他

生命誌に魅せられて

投稿日：2017.06.07 ニックネーム：JIN

既にリタイアした元コンピュータ・エンジニアです。
初めて投稿させていただきます。
中村先生のご研究「生命誌」に感銘を受けて、先生が当時NHK-TVで放送されたご講演の応援団メンバーです。先生の該博な知識と人に接する暖かさ、優しさ併せて細やかなご配慮など、今でも忘れられない思い出です。私は現在横浜市在住ですが、また当時のメンバーが集まる機会があると嬉しく思います。生命誌の催しで関東周辺で開催予定のものなど、あるのでしょうか。

お返事

投稿日：2017.06.08 名前：中村桂子館長

ごぶさたしています。パソコン通信という縄文時代のような時がなつかしいです。揉めごとも社会体験の一つでした。もし皆さん集まれるのであれば、私も伺います。館では今とくに催しを考えてはいないのですが、ホームページをのぞいて下さって、関西へお出でのついでがありましたらお立ち寄り下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

言葉と小学校教育

投稿日：2017.06.02 ニックネーム：竹ちゃん

言葉の力が落ちてきているように思います。特に、国会や政府の言葉の遣い方が気になります。
さて、今月中村館長さんのお話で思い出したことがあります。その一つは、教員になりたての頃、今から50年ほど前になりますか、感銘を受けた本です。それは、『見える学力 見えない学力』岸本裕史著です。我々は、どうしても結果で判断してしまいます。テストは、見える学力、測定可能な学力だということを忘れてしまい、テストの結果に一喜一憂してしまいます。確かにテストは、サンプリングとしての価値はありますが、それ以上でも以下でもないのです。全国一斉の学力テストを実施していますが、その結果に地方議会がある関心を示しています。その結果、学校現場はその発言に振り回されるようなこともあると聞いています。一斉テストの結果は、ある学力を反映しているとしても、学力は学校での取り組みだけで決まるものでもないことを理解しないで議論することもあるようです。それは、数字や言葉のもつ力でしょうが……。
二つ目は、入門期の指導です。先輩に「入門期の指導で大事なことは、知っている言葉（話している言葉）と文字とを結びつけると共に言葉と実態とを結びつけることです。また、言葉と心の結びつきにも心を配ることです」と教えられました。また、文字は、文字だけ取りだして扱うのではなく、言葉と結び付けて指導する方が、生きて働きます。そうすると、入門期から作文の指導も出来るようになります、とも教えられました。私の実感でもあります。

お返事

投稿日：2017.06.02 名前：中村桂子館長

考えているのは保身だけという人たちがばかりですね。ですから口から出てくる言葉が出鱈目になるのでしょう。最近の例で、「民間人になった人の言うことなど聞く必要はない」（正確ではないかもしれませんが）という意味の発言があったと新聞で見て、何をおっしゃるのですかと呆れました。すべては地位、しかも官が優れているという時代錯誤としか思えない意識の人が動かしている国が暮らしやすいものになるはずはありません。人間は人間として見て欲しいですね。そういう見方のできる人を育てるには国語の教育はとても大切だと思います。

